

令和２年度第１回学校評議員会報告

- １ 日 時：令和２年５月１３日（水）１５：３０～１６：３０
- ２ 場 所：本校会議室
- ３ 出席者：学校評議員５名、本校職員５名（校長、副校長、事務長、総務主任、総務担当）計１０名
- ４ 次 第：（１）開会 （２）校長挨拶 （３）自己紹介 （４）学校概況説明
（５）令和２年度学校経営計画について （６）質疑・意見交換 （７）閉会
- ５ 内 容：
【校長挨拶】

日頃から本校の教育活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症に伴い、感染防止指導等の対策を講じ、家庭や地域の協力を得ながら学校活動を行ってきた。現在、生徒の健康状態は良好である。昨年度卒業生は国公立大学進学者２名を含め、全員が進路目標を達成した。今年度は入学生１７名を迎え全校生徒７６名である。来年度も入学者が２１名に満たない場合は新入生募集停止の対象となる。さらに広報活動等に努めていきたい。本日は、学校運営に対して様々なご意見をいただきたい。

【学校概況説明】副校長より口頭説明

【学校経営計画】資料により校長より説明

【質疑・意見交換】

A氏：小規模校だからこそできる特色を皆で考えていくべきである。

B氏：魅力化促進事業について、大野中学校と大野高校間で行う企画について考えはあるか。

校長：生徒同士が部活動などで交流する場を設けていきたい。また、本校卒業生が中学校に伺い、進路先での経験を伝えることも検討している。生徒同士や教員同士で交流できる場面を設定していきたい。

C氏：中学校と高校間での交流は中学生にとって高校への憧れを感じる場となる。また、中学生が進学先を考える際、専門的な科目の選択肢が少ないため大野高校を選択しないと聞いたことがある。

校長：ビジネスコースに商業科目を配置し資格取得を目指している。現職員数ではこれ以上の専門科目設置は厳しい。非常勤講師を用いることでさらに幅広い教科指導を展開していけると考える。

D氏：魅力化促進事業にも関わり、有名講師の講演をオンラインで行えないだろうか。講演によって新たな価値観を知ることにつながるのではないか。また、久慈平荘との避難訓練は大野高校の魅力となっている。今年度の実施は検討しているが厳しい現状である。

E氏：今年度は、里山づくり講演会を行うのか。地域資源の里山は地域資源であり高校の魅力化促進事業にもつなげていくことができるのではないか。また、商業科については、免許外での対応になっているのか。人数減っている中で大変だと思うが、就職希望者への対応もお願いしたい。

校長：免許外での対応となっている。

D氏：地域おこし協力隊の者は、大野にない価値観を持った人である。生徒にとって良い刺激になるのではないか。また、外部地域から高校生を募集することについてどのように考えるか。

校長：寮のような施設で生活し、学校の施設を使って学習塾をしているといった事例もある。しかし、大野高校で実施することは、施設等も踏まえて現時点では厳しい。

C氏：大野小学校・中学校・高校と継続して、地域から講師を招き特色ある学習活動をすることで、地域の良さを認識することができる。

B氏：他地域から大野に、見学に来訪する学校もある。この地域の産業などを教材化すると、中高連携も図れるのではないか。

校長：１学年の総合的な探究の時間では地域についての学習を行っている。そこから進路学習にもつながっている。

A氏：大野高校卒業生は管外就職後もすぐに退職すると聞いたことがある。社会に対応できる能力を育成できる高校であってほしい。

校長：管内は就職先への定着率が高いが、県外に就職した者の定着率は低くなっている。

A氏：就職先で人材を生かしきれず退職する者も多いのではないか。高校は社会人になるためのステップアップが図れるように指導すべきだ。

B氏：魅力化促進事業は、小学校も対象となっているのか。

校長：小学校も対象である。洋野町の高校生が、小学校の学習会の講師をする活動をしている。

D氏：学校教育に足りないのは、金銭の学習と人間関係の学習だと考えている。例えば、社会人になり挫折した場合の対応も高校で学習すべきことだと考える。